

研究実施のお知らせ

2018年8月19日 ver.1.0

2023年6月26日 ver.3.0

研究課題名

ステレオ眼底カメラによる緑内障診断

研究の対象となる方

研究参加施設（島根大学医学部附属病院眼科，札幌逋信病院眼科・東北大学医学部附属病院眼科，聖マリアンナ医科大学医学部附属病院眼科，福井県済生会病院眼科）において原発開放隅角緑内障（比較的長期間3年以上かつ6回以上の視野検査フォローアップされている）と診断され，かつ，ステレオ眼底カメラによる視神経乳頭写真撮影が1回以上行われている方。

研究の目的・意義

緑内障は，本邦における中途失明原因第1位の疾患です。緑内障は，特徴的な視神経乳頭形状の変化とそれに伴う視野異常により診断され，緑内障による視神経異常（緑内障性視神経症）を回復する方法は無く，現時点における唯一の治療方法は，眼圧下降による進行予防を図ることです。そのため，緑内障は早期発見が特に重要な疾患です。緑内障による視神経乳頭形状の変化を発見する方法として，従来から眼底写真撮影が行われているが，平面による観察のため，緑内障に特徴的な視神経乳頭陥凹の深化を早期に捉えることは容易ではありませんでした。近年，緑内障診断にステレオ眼底写真撮影が行われるようになり，視神経乳頭形状を立体的かつ詳細に観察できるようになったため，より早期より緑内障性視神経乳頭形状変化をとらえることができ，早期発見・早期治療につながる可能性があります。本研究は，ステレオ眼底写真撮影から得られた視神経乳頭形状と緑内障の関連について調べる研究です。

研究の方法

各研究参加施設において，研究対象者の診療録を調査します。調査項目は，ステレオ眼底写真から得られる視神経乳頭形状パラメーターおよびその他の緑内障診断検査結果（視力・眼圧・視野・網膜断層撮影・乳頭血流・屈折・眼軸長），患者背景（年齢・性・手術歴・既往歴）に関するデータです。これらの抽出されたデータはリスト化した後に匿名化され，パスワードロック付きUSBに保存し宅配便にて島根大学に集められます。

研究事務局は、各施設から収集したデータをデータベース化し、視神経乳頭形状と他の緑内障性臨床因子との相関を統計学的に解析します。

研究の期間

2013年2月21日～2038年10月

研究組織

この研究は次の機関が参加して行います。

研究代表者（研究で利用する試料・情報の管理責任者）：

島根大学医学部附属病院眼科 谷戸 正樹

参加研究機関

[研究機関]	[研究責任者]
島根大学医学部附属病院眼科	谷戸 正樹
NTT 東日本札幌病院眼科	片井 麻貴
東北大学大学院医学系研究科神経感覚器病態学講座・眼科学	中澤 徹
聖マリアンナ医科大学医学部眼科	北岡 康史
福井県済生会病院眼科	新田 耕治

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2037年10月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部眼科学 谷戸 正樹

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2284 FAX 0853-20-2278